

***親子で納得

ニュースな経済学

経済ジャーナリスト・内田裕子

6月は「株主総会」の季節です。株式会社にとって、年に一度行われる「株主総会」は少し緊張するイベントです。株式会社は、おおぜいの「株主」にお金を出してもらって運営している、という話には以前しましたね。つまり、総会に集まる株主は「会社のオーナー」という存在。会社の経営のやり方に対して意見をいう権利を持っているのです。

株式会社は、社長や役員交代など、大切なことを決める時、株主に賛成してもらわないといけないルールです。いいかげんな経営をしていたら、株主からの信頼を失い、株主総会で決めることをするときに文句をいわれてしまいます。株主の意見は経営に大きな影響力を持っていて、多くの株主が団結したら、その会社の社長を首にするこ

株主総会で会社の経営をチェック

ともできるのです。ですから、株式会社は株主と良い関係を築いておく必要があるのです。

でも、どうして株主は熱心に会社の経営に口をはさもうとするのでしょうか。株主は「経営に参加する権利」のほかに「配当金をもらう権利」を持っています。「配当金」とは会社が出した利益の分け前のことです。会社が経営に必要なお金を銀行で借りたら、お金は返さなければならぬし、利子も発生します。でも、株式を発行して株主からお金を集めたら、そのお金は返さなくてもよいのです。でも、その分、会社は株主に対して、利益に応じて「配当金」という分け前を渡さなければなりません。ですから配当金が高い会社の株式は人気があります。しかし、株主への「配当」は会社の絶対的義務ではありません。会社が赤字なら配当なしでがまんさせられることもあります。社長にしっかり経営してもらわないと、株主はメリットを失ってしまいます。株主が会社にももの申すのはそういう理由からです。

でも、株主と一口でいっても、個人株主から、たくさんのお金を持っている大株主までさまざまです。大株主が経営の味方になってくれれば心強いのですが、敵対するような存在になるとやっかいです。株値が安いときに大量に株式を買い占めて大株主となり、会社に不当な配当金を要求したり、株値が上がらない理由を社長の責任だといって、経営に口をはさんできたりします。株式を市場に公開している限り、株主をえり好みできないというのが、会社経営の難しさです。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通して経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>



トヨタの株主総会に向かう人々
＝2009年6月、愛知県豊田市のトヨタ本社で

©朝日新聞